



学校だより

和歌山市立四箇郷小学校

平成30(2018)年度:No.40

8月号文責/校長:上田 仁

「3」という数字には意味がある

御三家や三本柱, 三人組に三国志…にと, 2でもなく4でもなく「3」というのがツボ。今回は四箇郷小学校の授業の在り方についてのお話です。

実は何年も前から, 県の教育委員会からも【授業の基本スタイルの確立】が言われています。そこでは, [すべての教員が『和歌山の授業づくり基礎・基本3か条』(見通し・言語活動・振り返り)を授業実践の中で徹底するなど, 教員一人一人の授業力の向上に努める]とあり, 当然それは学校の責任として明記されているのです。

北海道から沖縄まで, 大都会から地方までのすべての学校で同じレベルの教育を提供しなければならないのが義務教育の目的。ゆえに都道府県によって子どもの学力に大きく差が出ると困るのです。ローカルな話をすると, 四箇郷と周りの小学校とを比べて, もっと言えば同じ学年の隣のクラスと比べて大きく差が出ていると困るわけです。保護者の方や地域の教育力をあれこれ言う前に, 校長を中心とした教員全員が授業の在り方を今一度見直し, 改善し, 実践していかなければなりません。その意味においても, 県内の小学校でこの3か条をバイブルとして授業を進めてきているのです。

来校された際, このような視点・観点で参観されることもまたよろしいかと思えます。考えることを楽しむお子様の姿を見ていただければ最高だと思います。

和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条

和歌山県教育庁学校教育局学校指導課

児童生徒一人ひとりが確かな学力を身に付けることは, 学校教育に関わる者の責務であり, 地域、保護者、そして何よりも児童生徒本人の願いでもあります。

そのため, これまでの全国学力・学習状況調査の結果等から見えてきた課題をもとに, 和歌山の全小中学校で取り組む, 「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」をまとめました。全ての学校・学級・授業において実践し, 児童生徒の学力向上を図りましょう。

1 本時の目標・学習課題を明確に板書する。

授業は, 目標の達成を目指して児童生徒の実態に即して計画・実施されなくてはなりません。児童生徒がその目標や学習課題を把握し, 主体的に学習を進めるため, まず黒板に本時の目標や学習課題を児童生徒主体の言葉で書く必要があります。

そうすることで, 児童生徒の学習に向かう姿が変容し, 毎時間の授業が充実したものとなり, 学力向上が図れます。

2 児童生徒が自分の考えを書く時間を確保する。

自分の考えを書く活動を通して, 「書く力」とともに「考える力」を育てます。学習する用語を使い, 理由や根拠, 方法や考え方などを表現する活動を行うことで, そのことについて深く考え, その考えを整理し, 考える内容を明確にすることができます。

「何をどのように書かせるか」「書いた内容をどう評価するか」という視点を指導者がしっかりともち, 指導することで, 児童生徒の思考力・表現力の向上が図れます。

3 授業のまとめ・振り返りの時間を確保する。

各授業は, 児童生徒が目標の達成・学習課題の解決をめざして行われるべきものです。そのため, 授業の終末では, 児童生徒が「目標の達成ができたのか」「学習課題は解決できたのか」「次なる課題は何なのか」ということについて, まとめ, 振り返り時間が大切です。

そうすることで, 児童生徒が学習の評価を行い, 成果を自覚する力の向上が図れます。

これらの3つのポイントから授業づくりを進め, 私たちの手で, 全ての児童生徒の確かな学力の向上を図りましょう。

「和歌山の教育 基礎・基本 こんなこと, あなたの学校ではできていますか? (平成24年2月)」から抜粋